

マレーシア

景気は減速

SMBC Asia Monthly

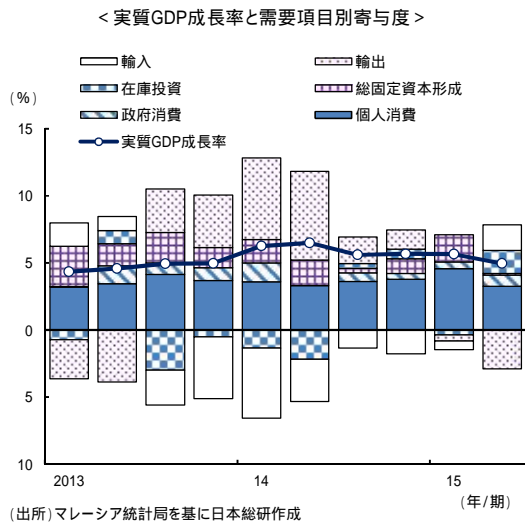
日本総合研究所 調査部
 研究員 塚田 雄太
 E-mail : tsukada.yuta@jri.co.jp

4～6月期の成長率は+4.9%

2015年4～6月期の実質GDP成長率は、前年同期比+4.9%と1～3月期(同+5.6%)から減速し、7四半期ぶりの低水準となった(右上図)。

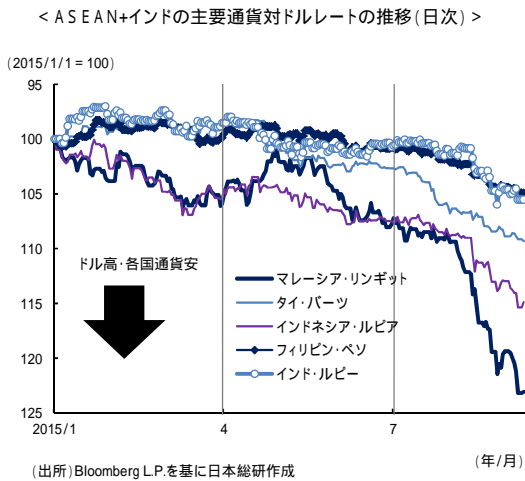
需要項目別の寄与度をみると、個人消費が+3.3%ポイント(1～3月期:+4.6%ポイント)、政府消費が+0.8%ポイント(同+0.5%ポイント)、総固定資本形成が+0.1%ポイント(同+2.1%ポイント)、在庫投資が+1.7%ポイント(同0.4%ポイント)、輸出が2.9%ポイント(同0.4%ポイント)、輸入が+1.9%ポイント(同0.7%ポイント)であった。在庫の増加と輸入の減少が成長率を押し上げたものの、民間消費と投資の減速、輸出の減少が足かせとなった。

民間消費は、4月より導入された物品・サービス税(GST)の導入前の駆け込みの反動減が影響した。また、総固定資本形成は、景気の全般的な先行き不透明感から民間投資が減速し、特に機械設備投資が前年同期比7.4%と大幅に減少した。一方、輸出では、4～6月期の鉱物性燃料等の輸出数量が同20.7%となるなど、資源輸出の減少が全体を大きく押し下げた。



大幅に下落した通貨リングットの対ドルレート

同国経済の先行きをみるうえで注目すべきは、通貨リングットの動向である。リングットの対ドルレートは、8月末時点で1ドル=4.18リングットと年初から約20%ドル高・リングット安が進行した(右下図)。また、近隣諸国通貨と比較しても、リングットの減価が著しいことを確認できる。通貨安が進んだ要因として、年内の米国利上げ期待の高まりに加え、同国の場合、原油や国際商品市況の低迷とそれに伴う財政収支の悪化、などが指摘できる。8月中旬の中国の元切り下げ以降は、中国景気の減速による一段の資源安や資源輸出の減少懸念が、リングット安を加速させた。こうした状況下、当面、ドル高・リングット安基調が続くと見込まれる。



通貨安は、ドル建てでの輸出増加に寄与するものの、同国の輸出は、原油やパーム油、天然ゴムなどといった資源輸出が約3割を占めており、中国などの減速による資源需要の減少分を補うだけの輸出増加は期待しづらい。一方で、通貨安は輸入価格上昇による物価押し上げを通じて減速させかねない。

以上を踏まえ、先行きを展望すると、内需ではGSTの反動減が来春にかけて続くほか、資源安による雇用・所得環境の悪化や、通貨安の進行が消費を抑制すると予想される。また、外需も世界経済の先行きが不透明なか大幅な持ち直しは見込み難しく、当面、景気は減速傾向が続くと考えられる。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。